

## —令和 3 年度 教育活動目標—

**I 学生を尊重した教育実践と主体的学習の促進のための教育方法への取り組みを行うことで教育の質の向上ができる。**

1. 常に学生を尊重した態度で接する。
  - 1) 教員から先に挨拶等の声かけを行う。
  - 2) 講義時間以外にも学年の教室を訪れ、学生とコミュニケーションを図る。
  - 3) 学生への指導は、先ず学生の思いや意見を先に聞き、個別に指導を行う。
2. 研究授業を通して、教材研究に取り組むとともに他者の授業評価を行うことで教育の質の向上につなげることができる。
  - 1) アクティブラーニング、共同学習、プロジェクト学習等の教育方法を取り入れ、学生に参加型授業を提供することで学生の主体的学習力の向上を図る。
  - 2) 事前に授業評価についての自己学習を行い、研究授業を参観し授業評価を行う。

**II 予定されている ICT 導入計画を把握し、事前に e-テキストの活用方法・緊急時のオンライン授業方法等を検討できる。**

1. 教員各自がタブレット端末の使用方法を熟知し、自らの授業に活用することができる。
2. 教務会議でソフト面の学習会を計画する。(e-テキスト・オンライン授業等)
3. 緊急時・災害時等にオンライン授業を行う準備計画に基づき、授業計画を立案・準備ができる。

**III 教員全員で看護師国家試験対策に取り組み、強化対策に参加することで学生の国家試験合格率の向上につなげることができる。**

1. 1年次から自己学習時間の学習計画を事前に立て、学生が自己学習時間を有効活用できる。
2. 低学年模試の振り返りを確実にを行い、低学年から学習方法について指導する。
3. 3年生の国家試験科目強化については、自身の担当領域の科目強化を計画・実施する。

**IV これからの看護師に求められているものを踏まえ、昨年度学習した新カリキュラムの方向性・必要とされる教育内容を導入した教育課程の編成ができる。**

1. 昨年度の授業評価を参考にし、現行カリキュラムの課題から新しい教育内容を見出す。
2. 新カリキュラム申請までに、担当領域の教育内容・教育方法を整理し、資料作成ができる。
3. 昨年度の授業評価を参考にし、自己の担当する領域における教育内容を整理する。
4. 令和3年9月までにカリキュラム申請に必要な資料の様式に沿って、資料の作成ができる。

## 令和3年度 教育活動目標 自己評価結果

令和4年3月8日

令和3年度教育活動目標大項目4つに対し、詳細項目を15項目挙げ、それぞれについて専任教員に無記名で調査を行った。令和3年度教育活動目標については、別途資料3参照。

1. 教育活動目標Ⅰ：評価項目1の教員から常に挨拶等をするを心掛けたでは概ね全教員が「とてもよく当てはまる」と評価しており学生への声掛けは、教員からできていた。講義時間以外の時間での学生とのコミュニケーションは平均3.5ポイントと若干平均値が下がっており、空き時間を作り学生とコミュニケーションを図る時間が少なかったことが分かる。

しかし、学生指導時の際は、まず学生の思いを聞くことから始め、個別に指導を心掛けた教員が多く、平均値3.89ポイントだった。様々な教育方法を活用し、学生の主体的学びをサポートする取り組みについては、平均3.56となっておりできている教員と難しかった教員のばらつきが見られた。

また、十分な教材研究が行えたかの問いについてもやや平均値が低く、3.33であった。その結果として、授業評価について概ね満足ができる結果だったと評価した教員は、平均値3.44ポイント、また、学生の単位修得試験結果についての満足度は3.11と低かった。教育方法について教員自ら学習し、学生の主体的学習を促しながら、理解を深めるための教材を十分検討することで、評価結果も満足するものに繋がっていくものと考えられる。

今年度は、授業参観を行った教員は、新任教員のみが参観し、お互いの授業を参観することで、授業案作成や教材研究に取り組む時間が取れなかった。そのことにより、自ら進んで他教員の授業参観を行った教員がおらず、評価平均も1.67と評価項目の中で最も低い結果となった。次年度からは、研究授業の実施計画を再度立て、毎年数名ずつの研究授業を行うことで教員の教育力の質の向上に繋がっていくものと考えられる。

2. 教育活動目標Ⅱ：令和4年度導入予定の電子テキストの使用法、及びオンライン授業の活用方法について説明会を開催したが、実際の教員自身の授業に活用できた者は限られている。

コロナ禍において、自宅待機や学内実習等により、動画配信サービスの活用、リアルタイムに複数の教室に対し同じ授業を行う等教員は必要に迫られオンライン授業の活用力を要求された。しかし、教員の力に差が生じ、得意な教員はうまく活用できていたが、苦手意識の強い教員は、なかなか取り組めなかった。そのため、平均値も2.78～3.0と低かった。

3. 教育活動目標Ⅲ：教員全員で国家試験対策に取り組む目標に対しては、当初全員で強化対策を実施する計画だったが、新型コロナウイルス感染症まん延防止重点措置の適応と重なり、長期間3年生は自宅学習となった。本来であれば成績低迷者に重点的に国家試験強化対策を実施しなければならないが、平均値も2.2～2.3と低く、教員自身の評価も難しかったと評価している。次年度以降コロナ禍が持続したとしても、工夫を行い、看護師国家試験合格率を上昇させるための取り組みを計画的に進めなければならない。

4. 教育活動目標Ⅳ：現行カリキュラムの課題を明確化し、新しいカリキュラム編成を行う目標については、新カリキュラムの編成ができたと評価した教員は、3.67と平均値は高かったが、現行カリキュラムの課題については、明確化できたとする教員が平均値2.89と低かった。新カリキュラムの編成は何とかできたが、その内容が現行カリキュラムの課題から検討した教育内容であったか、自信がないと自己評価した教員が多いものと考えられる。

令和3年度教育活動自己評価結果 資料3

